【ご興味のかた、どうぞお越し下さい】

日本山岳会科学委員会フォーラムXVI　2026年10月10日(土)13:00～
（立正大学品川ｷｬﾝﾊﾟｽ１３号館「ﾛｰﾀｽﾎｰﾙ」にて、）
ほか、講演には、「どのようにしてクマと共存していくか(須田知樹)」「登山道に命を吹き込もう(上 幸雄)」も（委細は次ページに）

雨期ヒマラヤの花の美と、乾期の大眺望 ー 観光地化進展と、ネパール2015年地震での懸垂氷河の崩壊によるランタン谷350人不明の惨事。この地は、被災履歴から住むべき地ではなかったー **長岡 正利**

ランタン谷は、1949年に英国人・ティルマンが訪れて「世界で最も美しい谷」と称賛したことで知られています。

「ランタンヒマール」と言われるこの地は、首都カトマンズから近い北方に位置し、ランタン国立公園の一部となっています。谷沿いには、5000～6000m峰が連なり、最高峰はランタン・リルン（標高7245m：1961(S36)年に大阪市立大学山岳会の３人が遭難死、1978年に同会が執念の初登頂を。）


南東側から見た、ランタン・リルン頂上
（2023年4月；乾期の大眺望）

演者は、2007年８月と、2023年春に、この地を訪問しました。その16年間を隔てての、驚くべき大変貌(ロッジなどの大増築)と、2015年ネパール大地震での山頂下のランタン村の被災状況及びその後の復興の現況を紹介します。



2007年には深い針葉樹林中に１軒の「ラマホテル」のみだったが、今や、登山道の両側に10軒近いロッジが林立して、大賑わい。
注：その名称は、谷奥のキャンジュン・ゴンパ(チベット仏教のお寺)に行くチベット仏教僧がここを宿営地とした故の地名で、「ホテル」ではない。



2007年時点のランタン村と、現在の被災地を、同じ視点から。
上写真(ﾓﾝｽｰﾝ期の雨天下)をよく見ますと、急斜面に３筋の細流があり、現在(右上写真)では、植生が総て剥ぎ取られて岩壁となりながらも、その３筋の細流位置は、岩壁を刻む溝としてよく見えています。

上述の地震では、山頂直下の懸垂氷河の崩壊掃流・爆風で、ランタン村全域が潰滅したもので、巨大な岩壁の下にあった３階建てロッジが１軒だけ残りました。崩壊の直撃のほか、爆風による家屋倒壊、対岸斜面の樹林地にまで被害が及びました。なお、1970年のドイツの航測地形図からは、死者が多かった被災地域(平坦で住みやすい)には、その頃までは聚落がなかったことが明瞭です。

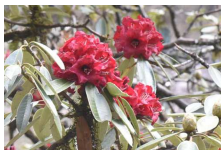
（日本でも、その様な事例(過去の伝承から「住むべき地ではない」地が住家連坦となって、大災害）は随所で。）

なお、講演では、今年８月のﾗﾝﾀﾝ・ﾘﾙﾝ北斜面での氷河・岩盤崩壊と土石流大惨害についても説明します。


ランタン谷の奥に見えてくる美しいﾋﾏﾗﾔ襞のｶﾞﾝﾁｪﾝﾎﾟ 6387m


谷の南側の山々





飛雪のﾗﾝﾀﾝﾘﾙﾝと、様々な花色で満開の石楠花。神猿、ﾊﾇﾏﾝﾗﾝｸﾞｰﾝも。




春には、日本でも見られそうな、ｱﾔﾒ・ﾍﾋﾞｲﾁｺﾞ・ｻｸﾗｿｳ。





盛夏(ﾓﾝｽｰﾝ)には、至る所に咲き誇る花々が。（いずれも種名不詳）

フォーラム 登山を楽しくする科学（XVI）

日本山岳会科学委員会



日　時　２０２６年１０月１０日（土）
　　１３～１７時　（受付は１２時３０分から）
会　場　立正大学品川キャンパス１３号館「ロータスホール」
（JR 大崎駅北改札西口徒歩５分。ホールへは「山手通り口」からお入りください。）

2026/8/15

演　　題	演　者
どのようにしてクマと共存していくか かつて全国的に絶滅の危機にあったはずのクマ類は、近年、全国的に目撃事例が増加し、人身事故も頻発するようになっている。クマによる人身事故増加に至る歴史的経緯を紐解き、現状の分析を踏まえて、クマと共存していく方法を考える。	**須田　知樹** 立正大学地球環境科学部教授 日本山岳会会員
登山道に命を吹き込もう 登山道は不思議な存在だ。登山、観光、趣味、山林業務等、多様な目的で、多様な入山者に頼られる施設であるが、法的規定がない。そのため、その維持管理が不明確で、安定した予算の確保ができない。アンケートや現地調査により入山者の声を届けたい。	**上　幸雄** 登山道法研究会代表 日本山岳会会員
雨期ヒマラヤの花の美と、乾期の大眺望 ー観光地化進展と、地震による懸垂氷河崩壊爆風でのランタン谷 350 人不明事故ー 2015 年ネパール大地震でのランタン谷氷河崩壊被災地の現況と、それに至るまでの観光地化進展を説明。死者･不明者 350 人のこの地は、50 年前の航測地形図からは、住むべき地ではなかったのです。併せて、訪問者が途絶えるモンスーン･ヒマラヤの美もご紹介。	**長岡 正利** 日本山岳会会員

参加申込み

申 込　木曽雅昭　（kagaku@jac.or.jp）あて
氏名（ふりがな）　会員は番号　住所　電話番号を記載　（締め切り ９月 30 日）
定員 150 名（先着順　定員に達し次第締め切り）
資料代　５００円（当日受付で　学生無料）
問合せ先　上記Ｅメールへ

会　場

